

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2016.3 vol. 119

定年退職のご挨拶

副院長 今村 純一



この度、私は定年退官となります。平成14年の9月に当院へ赴任して以来およそ14年間脳神経外科の手術・治療に専念することができ、また大過なく過ごせましたのも当院のスタッフのお陰です、深く感謝申し上げます。また地域の関連各位のご支援に感謝申し上げます。

【脳神経外科医として】当院へ赴任する前、私は国立下関病院（現：関門医療センター）の脳神経外科医長をしておりました。脳神経外科医が7人いました。手術件数も多く、忙しい状態でした。脳動脈瘤、脳腫瘍、脊髄外科、小児脳神経外科の手術を多く手がけていました。私は手術だけをするのではなく、最後まで患者さんを自分で診なくては落ち着かない性分のせいで、休日、夜間いつでも診療してきました。勿論、急患の手術も多数してきました。それが脳神経外科医の責務と考えていましたので精神的に負担とはなりません。当院へ赴任したときにも一番病棟に近い官舎の1階の角部屋に住まわさせていただきました。30秒で病院へ入れる近さです。いつでもすぐに緊急事態に対応でき、安心して診療できる環境だったのです。赴任前の当院の脳神経外科の手術件数は年間20数例という状況だったそうです。患者さんに不人気の病院なのかと思いましたがまもなく手術症例は2倍3倍と増えて、すぐに10倍以上、230例ほどに増えていきました。二人しかいなかった脳外科では対応限界を超えてしまいました。平成23年には熊本大学脳神経外科より支援をいただき3名体制になりました。お陰で忙しくて楽しい日々を過ごしました。皆、優秀なだけでなく、精力的でした。手術や救急に躊躇なく取り組むだけでなく、学会活動や論文作成も良くやってくれました。最も私らしい日々を過ごさせていただいた時期でした。しかし悲しいかな、皆1-2年で人事交代です。この14年間、当院脳神経外科に残されてきたのは私一人でした。そのために後任の育成が十分でできなかったことは心残りとなっていました。

【病院の運営に関して】その後、統括診療部長、副院長と少し色合いの違う仕事に取り組み始め、当直からも外れました。そのせいもありますが手術件数は減少してきました。病院幹部の一員になり、60以上の様々な会議に出ることになりました。その間、病院の経営やその維持、医療の質を保つこと、医療者を護ることなどを考え、5年後、10年後の鹿児島医療センターの将来の有り様を考えてきました。組織の運営には様々な、複雑な仕事があります。医師・看護師・パラメディカル・事務職員・クラーク更に縁の下の力持ちのように設備担当技術員・給食職員、売店や食堂職員の皆さん、すべての方々が鹿児島医療センターの医療を担う一員で、誰が欠けても病院という組織の運営はたちかなくなってしまう。各部署の職員の方々の真摯な働きで成り立っている事を感じさせられます。職員各位の御協力に深く感謝する次第です。鹿児島医療センターは鹿児島市民だけでなく鹿児島県民の医療に中心的な役割を担う病院の一翼として、質の高い医療で貢献すべき組織です。更なる飛躍を願っています。

【今後の私】私は次年度より出水市の病院管理事業者として市の特別公務員として働くことになりました。地方の中規模病院や診療所の経営や運営に関わる事になります。医療はご存じのように大きな変換点にさしかかっており、厳しい環境圧（超高齢社会、人口減少、医療費の増大、増税など）を堪え忍ばなくてはならないのかもしれない。鹿児島医療センター以上に厳しい現実が待っているかと思われます。そんなところにわざわざ行くのは、そうだからこそやり甲斐もあるのではないかと考えたからです。市民の生活と健康を守るために、医療運営は極めて重要な課題です。それを乗り越えることに魅力も感じています。非力ではあるかもしれませんが当院で学んだ事を生かして、新しい分野で奮闘してみたいと思います。

最後に、皆様には多くのお世話をいただきありがとうございました。これからもお世話になることもあるかと思います。今後とも御指導、御助力のほど宜しくお願い申し上げます。

緩和ケア研修会に参加して

平成28年1月10日（日）、11日（月）の2日間、鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校において、当院主催の第8回目の緩和ケア研修会を開催しました。

受講生は研修医2年目から臨床経験36年の医師11名、他職種12名が参加しました。

今年度より当研修会は新開催指針に沿ったプログラムへ変更されましたが、院外から例年講師・協力者としてお世話になっておりますKKR札幌医療センター・緩和ケア科・瀧川千鶴子先生をはじめ、県内から5名の医師、4名の認定看護師の皆さま、院内からも各部署から多くの協力を頂き円滑に進行することができました。

研修終了後の受講生からは「医療者として、がん患者の苦痛を理解し症状緩和をしていくことや関わり方を学ぶことができた」「緩和ケアに関する理解が深まった」「多職種と交流できたことで意見や業務内容を聞いてよかった」「がん以外の領域でも今回学んだことを今後に生かしていきたいと思った」などの感想があり、患者さんやご家族のつらさを全人的視点で捉え、包括的な評価と適切な対応、チームアプローチが重要であることへの理解が深まり、再認識できたのではないかと思います。また、研修会の目的である「痛みをはじめとした、がんによる苦痛に対する緩和ケアの知識、技術、態度を修得し、実践できる」という基本的な緩和ケアの習得に繋がったのではないかと思います。

最後に、この場をお借りしまして、準備から当日の行き届いたサポートに講師・協力者の皆さまへ深く感謝申し上げます。今後とも多くの職種の皆さまのご参加およびご協力を宜しくお願い致します。

（文責：緩和ケアチーム 馬籠 さつき）

初めて参加させて頂いた緩和ケア研修会でしたが、とても充実した2日間となりました。緩和ケアの総論から、鎮痛・鎮静薬の使用法といった各論まで、講師の先生方のお話は大変参考になりました。グループワークの時間もたくさん設けられており、他職種の方々から具体的な事例を元にした意見を聞くことが出来ました。研修会の中で最も印象に残ったのは、癌の告知を行うロールプレイでした。告知を受ける患者さんの役になったとき、本当の告知ではないとわかっていても緊張してしまい、本当の告知であればどれほどの緊張になるだろうと、コミュニケーションの重要性を改めて考えさせられました。また、普段慣れている医療関係者との会話も、患者さんの立場に立つと圧迫感を感じてしまい、そのことがとても驚きでした。このような緊張や圧迫感の程度は患者さんにより様々だと思いますが、より良いコミュニケーションが取れるよう、これからも患者さんの立場になって考えることを忘れずに診療を続けていきたいです。研修会を支えて頂いた方々に感謝申し上げます。

（文責：研修医 佐藤 龍一）



今回緩和ケア研修会に参加させていただき、特にせん妄時に使用する薬剤の特徴を学ぶことができました。医療従事者どうし配役を決めてのコミュニケーションのロールプレイは初体験で難しいところもありましたが、質問を受ける患者さんの気持ちや看護師と患者さんの対話を第三者として聞くことができ、とてもいい経験になりました。今後、患者さんへの接し方や質問の仕方などを変えていかなければならないと痛感させられました。また、自宅退院を希望する末期がん患者さんの生活について検討した症例では、介護保険の申請、ベッドや床に至るまでの自宅改築など普段自分が関わることのない分野の専門的意見があり、チーム医療の大切さを改めて実感することができました。今回研修を開催するにあたり、企画・運営してくださったスタッフの皆様に感謝いたします。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

(文責：薬剤師 前田 知穂)



出前講座のご案内

鹿児島医療センターでは、地域施設職員の皆さまとの交流を通し、連携の強化と職員の皆さまの知識や技術の向上に繋がるお手伝いをしていきたいと考えております。そこで、当院では認定看護師による出前講座をお受けしております。出前講座の内容は下記のとおりです。是非ご活用ください。

講師	講座名	時間	実施時期	対応可能曜日 時間13時～16時
感染管理	ノロウイルス対策	要望に応じて	11月～3月	月・金曜日
	インフルエンザ対策		11月～3月	
	手指衛生		時期問わず	
	個人防護具		時期問わず	
	標準予防策		時期問わず	
救急看護・集中ケア	・応急処置	要望に応じて	時期問わず	随時
	・高齢者に忍び寄る大きな病気 ～こんな症状にご用心～	45分		
脳卒中リハビリテーション看護	・脳卒中発症時の対応 ・脳卒中予防	要望に応じて	時期問わず	火曜日
糖尿病看護	糖尿病とフットケア	30分	時期問わず	火曜日
がん化学療法看護	化学療法中の日常生活指導 有害事象への対応	要望に応じて	時期問わず	随時
がん性疼痛看護	医療用麻薬の管理・服薬指導 疼痛評価	45分	12月～3月	月曜日
がん放射線療法看護	放射線治療後の口腔ケア	要望に応じて	時期問わず	随時
緩和ケア・救急・感染管理 ・がん化学療法看護	エンジェルケア	60分	時期問わず	随時
緩和ケア	緩和ケアについて	30分	12月～3月	月曜日

【問い合わせ・申し込み先】 鹿児島医療センター 看護部 (担当者:馬籠)
TEL 099-223-1151(月～金: 9時～16時) FAX 099-226-9246
Mail ryu@kagomc2.hosp.go.jp

中間管理者研修について

当院では毎年、各科医長、コメディカル、正・副技師長、主任、正・副看護師長、及び事務職の係長以上を対象にテーマを決め、ディスカッションし、解決策を模索し、発表することで中間管理者のモチベーションを高めていく研修を実施しています。

しかし、昨年は予定していた桜島での研修が噴火活動の活発化により職員の安全を考慮し、中止せざるを得ない状況となっていました。

今年も、桜島の活動は予断を許さない状況であることから今年度は鹿児島市内のホテルウェルビュー鹿児島で実施することとなりました。

当院から送迎バスで15分ほどの、与次郎ヶ浜という、桜島を一望できる海岸線に位置したホテルでした。

研修は29日（金）19時より院長の講演「鹿児島医療センターの現状と今後」及び経営企画室から「SWOT分析の方法」についての説明がありました。

今回の研修の目標は、当院の置かれた状況を踏まえて、SWOT分析を行い、その結果を模造紙に表現し、発表を行うことにあります。

【SWOT分析：目標を達成するために必要な意思決定の判断材料として、外部環境や内部環境を強み（Strengths）、弱み（Weaknesses）、機会（Opportunities）、脅威（Threats）の4つのカテゴリーで要因分析し、強みをどのように活かすか？弱みをどのように克服するか？機会をどうやって利用していくか？どうやって脅威を取り除くか？について対処方針を検討していく経営戦略方法（皆さまに期待される病院を目指す）のひとつです。】

分析を行うグループは医師、コメディカル、看護、事務、看護学校を含めた8人程度で、計10グループを編成しました。

研修内容の説明後、宴会場で懇親会が行われ、職場を越えたコミュニケーションを図ることができ、明日のグループワークへのモチベーションも上がってきました。

翌日は午前9時よりグループワークを開始し、活発な意見交換がなされ、配られた模造紙は、各要因や対処方針を記載したポストイットで次々と埋め尽くされて行きました。内容が経営的、専門的なので、普段、経営分析にはたずさわらない部署では難しい課題とも思われましたが、自部署が抱えている問題点から病院全体の問題へと話題を展開していくことによりグループ内での議論も活発になりました。約1時間半のグループワークの後、発表となりました。

各グループとも持ち時間5分、質疑2分でしたが、発表するうえで伝えておきたいこと、フロアから聞きたいことが大変多く、非常に白熱した議論となりました。なかでも、救急医療の受け入れ体制における職員相互の連携、医療機関の多い鹿児島市内での連携強化方策、ホームページを始めとする病院の広報のあり方などが話し合われました。

この研修で得た、各部署からの生の声を生かしながら、職員の相互協力のもと皆さまに期待される病院を目指したいと考えます。

（文責：庶務班長 上山 卓朗）



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 菌田・谷口・田上・吉永・鷺頭・吉留・山口・櫻木・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

